

Kurosawa Travels around the World

The Masterworks in Posters from the Collection of Toshifumi Makita

世界30か国の黒澤映画ポスター、一堂に会す



国立映画アーカイブ開館記念

展覧会

没後20年

旅する黒澤明

榎田寿文ポスター・コレクションより

2018.4.17(火)-9.23(日)

月曜日、8月7日(火)～12日(日)、9月4日(火)～7日(金)は休室です。

国立映画アーカイブ展示室(7階)

開室時間:午前11時～午後6時30分(入場は午後6時まで)
料金:一般250円(200円)/大学生130円(60円)/シニア、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料
料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。()内は20名以上の団体料金です。
*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。
*国立映画アーカイブの上映企画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。
主催:国立映画アーカイブ 国立映画アーカイブホームページ <http://www.nfaj.go.jp/>



映画を残す、映画を活かす。

国立映画アーカイブ

National Film Archive of Japan

「映画は世界の広場」——黒澤明

黒澤明監督の作品ほど、世界各地を駆け回り、あまねく上映されてきた日本映画はないでしょう。1951年、ヴェネチア国際映画祭で『羅生門』が金獅子賞を受賞して以来、『クロサワ』の名は世界の映画界を席卷し、日本映画の高い芸術性を示すシンボルとなってきました。1998年の逝去から20年、今も変わらずその名はとどろいています。

しかし、そのような映画史上の巨匠といえども、その評価の果てしない拡がりを実感することは簡単ではありません。国立映画アーカイブの開館記念企画となるこの展覧会では、黒澤明研究者・楳田寿文氏のコレクションから、世界30か国にわたる黒澤映画のポスター84点を中心に、海外とのかかわりを示す資料も展示し、その卓越した国際性に光を当てます。

生前の黒澤監督は「映画は世界の広場」と語っていました。しかしその版図は欧州や北米だけに止まるものではありません。各国のデザイナーや画家たちの、作品の力感に沿った筆致や大胆で前衛的な解釈とともに、『世界言語』としての黒澤映画をぜひ体感してください。

Film director Akira Kurosawa's works are undoubtedly the most frequently and widely circulated and screened all over the world. After *Rashomon* was awarded the Golden Lion at the Venice International Film Festival in 1951, the name "Kurosawa" became a sensation in the international film world and has become a symbol of the high artistic quality of Japanese films. It has been 20 years since he passed away in 1998, and still his name resounds in the present day.

Even for such a master film director, it is not so easy to thoroughly understand the reputation he acquired and which became so widespread. As a special program to celebrate the opening of the National Film Archive of Japan, this exhibition spotlights Kurosawa's supreme internationality by showing 84 posters of his films from 30 countries, together with other materials related to his connections abroad, selected from the collection of Toshifumi Makita, a researcher specializing in Akira Kurosawa.

Kurosawa often said that "film is a kind of international plaza", where people from every country — beyond Europe and North America — can come together. We hope you enjoy these dynamic and audacious interpretations of his films by designers and painters from each country focusing on the power of Kurosawa's works as a "global language".



表:左上から右下『用心棒』アメリカ版(1961年)
 『天国と地獄』イギリス版(1963年)
 『影武者』東ドイツ版(1981年)ポスター:オットー・クンメルト
 『蜘蛛巣城』イタリア版[2シート判](1959年)ポスター:カルラントニオ・ロンジ
 『酔いどれ天使』ポーランド版(1960年)ポスター:ウワディスワフ・ヤニシェフスキ
 『七人の侍』イギリス版[アカデミー・シネマ版](1950年代)ポスター:ピーター・ストロスフェルト
 『七人の侍』ポーランド版(1960年)ポスター:マリアン・スタフルスキ
 裏:左から右『生きる』アルゼンチン版(1950年代)
 『羅生門』西ドイツ版(1959年)ポスター:ハンス・ヒルマン
 『赤ひげ』タイ版(1965年)
 『赤ひげ』キューバ版(1966年)ポスター:エドワード・ムニョス・パッチ

世界が認めた黒澤映画の素晴らしさをポスターで

トークイベント

7月21日④
 マンハッタンでのKUROSAWA—アメリカの黒澤明事情
 平野共余子(映画史家、元ジャパン・ソサエティ映画部門ディレクター)

8月25日④
 展示品解説—映画ポスター史の視点から
 岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)

9月8日④
 クロサワはどのように世界で発見されたのか?—展示資料の読み解き方
 楳田寿文(黒澤明研究者、本展出品者)

*詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

上映

『生きものの記録』ダイレクトプリント

国立映画アーカイブの開館記念上映企画「映画を残す、映画を活かす」(4月10日~23日)の中で、黒澤監督作品『生きものの記録』(1955年)を、可燃性オリジナルネガフィルムから作成したダイレクトプリントで上映いたします。

4月17日④ 7:00pm

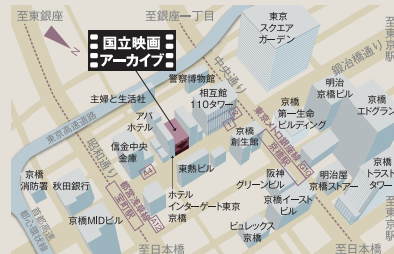
4月21日④ 1:00pm

*詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

*上映企画「シネマ・エッセンシャル(仮)」(8月21日~9月2日)でも黒澤監督作品の上映を予定しています。



〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
 お問い合わせ: ハローダイヤル 03-5777-8600
 国立映画アーカイブホームページ
<http://www.nfaj.go.jp/>



交通

- ▶ 東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
- ▶ 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
- ▶ 東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
- ▶ JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分